

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 21 2011. 3. 28 20:30 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren. gr. jp

◇緊急被曝対策本部 福島民医連各事業所と南相馬市を訪問！◇

3月27日、福島民医連事業所の状況把握と支援、さらに福島第一原発から半径10～30キロの範囲にあり屋内待避・自主避難という複雑な状況に置かれている南相馬市への訪問を目的に、小西副会長、長瀬事務局長はじめ緊急被曝対策本部のメンバーが2班に分かれて福島入りし、その後、県連、法人の幹部と懇談しました。福島の職員は、自らが被災者でありながら、民医連や医療福祉連の物資支援、さらにはOBなどの人的支援を受けながら懸命に奮闘しています。わたり病院は南相馬の大町病院の透析患者を30人受け入れています。

南相馬市を訪れた長瀬事務局長や松本県連会長は、義援金を渡し市長と懇談しました。市長からは、政府の方針の曖昧さと風評被害により、7万人市民のうち、5万人以上が待避、物資も郵便物も入らないなど陸の孤島と化した中、全日本民医連や福島県連に対し、「残された市民の命・生活を守る具体的な支援を」と要請されました。医師会長も市民を放り出すわけにはいかないと1人戻り、診療所(産婦人科)を開始していました。避難所では家族の安否確認すらできない厳しい状況を聞きました。

こうした状況を踏まえ福島県連として支援方針を早急に定め、必要な支援を全日本民医連に要請して頂くことを確認しました。

=3/24、藤末会長とともに福島民医連の看護集団を激励した窪倉副会長の感想より=

福島県連の各法人・事業所は自らも被災しながら、師長、管理部を先頭にひとりひとりの職員の困難を把握し、職員の生活支援物資も供給しています。職責者の打ち合わせも連日きちんとされており、職員集中もよく、団結がより深まっています。これまでの看護体制、看護内容を継続しながら、震災直後からの訪問看護、避難所での健康支援や、被災地から在宅酸素患者や透析患者の受け入れを行っており、医療の継続、避難所の人びとへの支援に奮闘されています。「さすが民医連」の感を強くしました。

地震、津波、原発事故という未曾有の被害にある福島。避難されている方達はまさに、流浪の民。避難所で疲労した母親に抱かれた赤ちゃんの笑顔が忘れられません。

もどかしさ、怒りが交錯しましたが、「一日も早く、すべての人に安らぎを取り戻したい…」との願いとともに、決意を新たにしました。



* 福島民医連の看護集団と藤末会長・窪倉副会長

坂総合病院：500軒に地域訪問！離島へ医療支援も！

坂総合病院では、3日前から地域訪問を開始、500軒以上のお宅を訪問しています。「坂病院から来た」といえば、それだけで歓迎され、個別に訪問することで、被災者の具体的な要求もつかめるようになっていきます。やはり高齢者の医療の確保が重要で、坂病院に通院したくとも薬も取りにいけない悩みも少なくありません。数日間も便秘が続いている方に、訪問した看護師が摘便した事例もでてきます。

27日(日)は地元の町会議員の要請で、群馬と埼玉のチーム(医師2名、看護師3名、事務3名)を松島の離島である桂島の避難所(浦戸第二小学校、200名が避難)に派遣しています。(☆28日付しんぶん赤旗の記事を添付します)

支援者到達(28日現在)：1,163人(医師229人!看護師361、事務336!)
支援募金：5,900万円突破!

◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。